

2018 年度

近畿支部

親と子の都市と建築教室

「京町家の伝統技術を学ぶー小舞編みと土壁塗り」終了報告

今回 16 回目を迎えた本教室は、京都の町家を支える重要な伝統的要素であり技術である「土壁」について、親と子が共に実際の土壁づくりを体験しながら学ぶことを目的とした、学校法人京都建築学園京都建築専門学校（以下、京都建築専門学校）と本会当支部との共催事業である。そして、京都建築専門学校の佐野春仁校長と京都府左官技能専修学院の佐伯護学院長には、これまでと同様、講師をご担当いただいた。

この教室の特徴は、本物の土壁と触れあう多様なコンテンツが用意されていることにある。参加者親子が実際に自らの手で土壁の下地となる竹小舞を編み、その上に荒土壁を塗る経験ができることはもちろん、一流の左官職人でもある佐伯学院長の中塗りの実演に触れられること、さらに京都建築専門学校の「よしやまち校舎」の中で学べることである。この校舎は京都の庶民的な町家を、土壁をはじめとした伝統的な素材と技術を惜しみなく投入し再生した生きた教材なのである。

開催日は、京都市の地蔵盆と同じ日に当たる 8 月 18 日（土）であった。今年も“みやこ子供土曜塾”の情報誌「GoGo 土曜塾」や本会会報などでの広報により、定員を超える応募があった。当日は 3 組の欠席が出たものの、全部で 12 組 14 名の子供達、そして 14 名の保護者の方々が参加、内 1 組は東京からの参加であった。その他にも、子供連れではないが、土壁塗りに興味があるというご夫婦、そして本教室のドキュメンタリーを制作したいという京都出身の日大芸術学部学生も撮影のため、オブザーバーとして参加する盛況ぶりで、回を重ねた本教室の浸透具合、そして京町家や土壁に対する注目具合が察せられる。

当日の流れは、「よしやまち校舎」広間にて 10 時開会、ぎっしりと広間が参加者で埋まる中、まずは神澤常議員から子供たちに向けて、わかりやすく土壁の素晴らしさを伝える話が披露された。その後、参加者の自己紹介、1 日の行事説明を経て、近隣にある京都建築専門学校本校の一階ピロティにしつらえた作業場に移動した。小舞編み・土壁塗り体験の教材として、壁面を模した木枠群が一行に据え付けられており、佐野校長の指揮のもと京都建築専門学校の学生スタッフらによって準備された本格的なものである。これを見ただけで子供達にやる気がみなぎってくるのが伝わってくる。午前中は、講師の先生方から竹小舞の編み方の説明を受けた後、子供達の背丈を超える畳 1 畳大の木枠の中に、下地となる竹小舞をわら縄で親子が助け合いながら編み上げていく。

近くのお店から取り寄せた京のおばんざいを「よしやまち校舎」にて頂いた昼食後は、佐野校長の解説を聞きながら京都の町家やその保存活動について学ぶ「よしやまち校舎」のミニ見学会である。子供達は自分達の家とは違う、さまざまな見どころに溢れた京町家に興奮が隠せない様

子であった。

そして午後は再び作業場に戻り、土を竹小舞に塗る荒壁塗り教室。まずは、材料となる土練りから取り組む。子供達はもうこの段階で泥だらけになっていく。美しい土壁はこうした地味な下ごしらえを積み重ねて出来ていくことを否応にも実感したことだろう。そしてメインとなる土壁塗りに突入。佐野校長、佐伯学院長から、鏝板や鏝の扱い方、小舞への土の塗り付け方などを教わった後で、最初はおそるおそる、やがてコツをつかみはじめると汚れるのも厭わず真剣に取り組むその様に、見ているこちらがうれしくなる。一緒に土と格闘した保護者の方々にとってはなおさらだろう。

子供達による荒壁塗りが一段落した後は、佐伯学院長による中塗りの実演が披露された。一流職人の早く美しい仕事ぶりを目の当たりにした子供達の驚きが、その顔からありありと窺える。佐伯学院長には子供達が塗り上げた荒壁について講評も頂き、作業所での体験は終了、「よしやまち校舎」に移動して教室は終盤を迎える。子供達各自の感想の報告、大阪大学学生による自作スケッチをもとにした本教室で体験したことの振り返り、佐野校長による総評、「ちびっこ親方」修了書の授与式、最後に親と子の都市と建築教室拡大実行委員長であり自身も土壁の家に住まう松原常議員の実体験を踏まえた全体講評を経て、教室はあっという間に 17 時の閉会を迎えた。

講師の方々に加え、京都建築専門学校、大阪大学の学生、過去に 8 回もの参加経験を持つ近畿大学の学生らボランティアの献身的な支えもあり、参加してくれた子供達や保護者の方々には貴重な伝統建築やその技術に直に触れ学ぶことができた、夏休みの特別な 1 日になったことだろう。

日本建築学会近畿支部常議員

松原茂樹(親と子の都市と建築教室拡大実行委員長)

神澤宏明、阪田弘一、島野幸弘、安福健祐



写真1 「よしやまち校舎」広間での参加者の自己紹介



写真2 作業場で佐野校長から竹小舞の編み方の説明を受ける子供達と保護者の方々